

大会名 Competition	秋田国体記念 第20回能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-110	Year Month Day Time 2007 年 5 月 5 日 15 : 30
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B										
DeMatha	<table border="1"> <tr><td>27 1st</td><td>20</td></tr> <tr><td>27 2nd</td><td>24</td></tr> <tr><td>29 3rd</td><td>21</td></tr> <tr><td>27 4th</td><td>32</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	27 1st	20	27 2nd	24	29 3rd	21	27 4th	32	OT		能代工高
27 1st	20											
27 2nd	24											
29 3rd	21											
27 4th	32											
OT												
110		97										
○		●										

主審:Referee  
藤垣 庸二 (宮城)  
副審:Umpire  
片寄 達 (宮城)  
テーブル・オフィシャルズ:Table officials  
能代北高校

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
1		Corey Smith	CAP	-	-	-	-	-	4	×	渡 部 敬 祐	CAP	20	5	0	5	3
2	/	Byron Richards		0	0	0	0	0	5	×	満 原 優 樹		21	0	7	7	3
3	×	Austin Freeman		30	1	12	3	2	6	×	高 橋 健 太 郎		12	0	5	2	1
4	×	Kenny Tate		6	0	3	0	4	7	×	長 谷 川 技		12	1	2	5	1
10	/	Joe Smith		0	0	0	0	1	8	×	高 橋 陽		12	2	3	0	2
11	/	Phillip Green		2	0	1	0	1	9	/	宮 川 光		2	0	1	0	1
12	/	Marcus Rouse		0	0	0	0	3	10	/	館 山 健 太		18	6	0	0	1
13	/	Tyler Carter		0	0	0	0	1	11		石 川 朝		-	-	-	-	-
20	/	Bryon Allen		2	0	1	0	1	12		熊 谷 健		-	-	-	-	-
21	×	Isaiah Tate		25	1	10	2	1	13		伊 藤 伸 高		-	-	-	-	-
30	×	Jeff Peterson		17	1	6	2	2	14		小 川 昌 志		-	-	-	-	-
44	×	Jerai Grant		28	0	13	2	4	15		武 藤 修 平		-	-	-	-	-
				-	-	-	-	-	16		金 田 健 大		-	-	-	-	-
				-	-	-	-	-	17		飯 田 啓 人		-	-	-	-	-
				-	-	-	-	-	18		佐 藤 光		-	-	-	-	-
コーチ		Mike Jones							コーチ		加 藤 三 彦						
									Aコーチ		佐々木 信 吾						
合 計				110	3	46	9	20	合 計				97	14	18	19	12

※ ×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* イントシュート 2P:2P\* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第1Q序盤、DeMathaは#4 Grantのゴール下シュートで先制すると、力強いドリブルで能代工のゾーンプレスを突破し、次々とレイアップシュートを決める。能代工は3Pで反撃するが、DeMathaのドライブインを止めることが出来ずじわじわとリードを広げられる。DeMathaが#4 Grantの豪快なダンクなどで23-9とリードし一方的な試合になるかと思われたが、能代工は#7長谷川の3Pが決まると息を吹き返し、#8高橋(陽)のカットイン、途中出場#10館山の終了間際の3P等で7点差まで追い上げて第1Qを終える。

第2Q序盤、能代工#5満原の豪快なブロックショットが決まると試合の流れは能代工へ。#8高橋(陽)のスティールからのレイアップを皮切りに、#10館山の3Pが決まったところでスコアはDeMatha32-31能代工の1点差となる。DeMathaも意地を見せ#3が個人技で得点しリードを守るが、能代工は#6高橋(健)が連続得点。一進一退の攻防ながら試合はアップテンポな能代工ペースで進む。DeMathaは残り3分のタイムアウトで落ち着きを取り戻し、#3Freemanの滞空時間の長いダブルクラッチ等で再びリードを広げ、DeMatha54-44能代工で前半終了。

第3Q、能代工は立ち上がりから#7長谷川がドライブからのバスケットカウント、アシストなどで攻撃の起点となり、再び6点差まで追い上げる。しかしDeMathaは#4 Grantがインサイドを支配し、着実に加点してじわじわとリードを広げる。能代工は#8高橋(陽)、#4渡部らの3Pで応戦するが、リバウンドで優勢に立ったDeMathaが83-65と更にリードを広げて最終Qへ。

第4Q開始直後、DeMathaは#4 Grantの豪快なタップダンクで場内を沸かせるが、能代工は得意とするルーズボールからの速攻が決まり始め、前半はアシスト役に徹していた#5満原もフェイドアウェイシュートを決めるなどして追い上げに入る。#4渡部の3Pが決まりDeMatha88-77能代工となった所でDeMathaはたまたまタイムアウトを請求。その後は、一進一退の攻防となる。しかし終始インサイドから確率の高い攻撃を続けたDeMathaが徐々にリードを広げ、DeMatha110-97能代工でタイムアップ。DeMathaが全勝で優勝を飾った。